



横浜の桜名所として有名な大岡川沿いの桜。大岡川に架かる観音橋とさくら橋の周辺には大勢の花見客が訪れます。

目次

センターだより 創刊 100 号 記念特集	2
メダカの学校を目指して	2
「神奈川学習センターだより」発行までの長い前夜 -100 号記念連載第 1 回-	4
第 100 号の発行にあたって	6
春のフェスタ・ヨコハマ、令和 6 年度 学位記授与式、令和 7 年度 第 1 学期 入学者の集い	7
所長による勉強の仕方講習会、客員教員の異動について	8
令和 7 年度 神奈川学習センター開講ゼミ一覧	9
学生サークルからのお知らせ	10
神奈川同窓会だより、K-サポートからのお知らせ	11
神奈川学習センターからのお知らせ	12

センターだより 創刊 100 号 記念特集

メダカの学校を目指して

濱田 嘉昭



今、私の机の上に、「神奈川学習センター学生支援システム報告書」（2009年3月）及びそれ以降、毎年作成されたもの（以下『報告書』と呼ぶ）と、当時の宮崎安博事務長の作成した「所長引継ぎ書」（2013年）（以下『引継ぎ書』と呼ぶ）がある。これらのページをめくりながら、私が神奈川学習センター（これも以下 KSC と略記）の所長を務めた時代に立ち上がった“学生による「チーム制サポーター」システム”、すなわち K-サポートの経緯と活動の一端を振り返ってみたい。

発足 『報告書』の表紙には 23 名の皆さんが写っている。そう、すべてはここから始まった。2008年3月19～20日に、湘南国際村に1泊し、学生の学生による学生のためにどのような活動ができるかをじっくりと話し合った結果、「学習支援」、「機関紙編集」、「地域連携（ウォーキングを含む）」、「バス研修・行事」、「同好会サポート」のチームと、全体の調整連絡を行う「事務局」が出来上がった。

準備 もちろん、いきなり K-サポートのチームができたのではなく、その前に募ったボランティアとしては 40 名が登録されていた。そして、ボランティアサポーターがどのような活動ができるかについて、当時、KSC 所属であった坂井素思先生の助言で、千代田区立図書館の見学があったし、大学本部にこの活動を支える資金として学長裁量経費に応募する準備も行っていった。

理念 私たちが共通理解としていたことは、放送大学は生涯学習の機関であり、大学本部・学習センターによって学生の活動が支援されていることである。生涯にわたって新たな知識を学ぶだけでなく、その学びを分かち合い、伝え合い、学びを社会に還元するという、「知識循環型社会＝知識基盤社会」を実現する重要な施設が学習センターであるということである。学習センターには、本学の学生だけでなく近隣の住民も集まってくるのが求められているし、学生も大学の枠内だけの活動ではなく、外に“打って出た”交流がなければ、知識循環も狭いものになってしまうだろう。

資金 前記のような一種の理念を実現するためには、現実には金銭的な支援も重要である。私が代表で申請した「学長裁量経費」は、当時の石学長に支持された。2年目の学長の教授会における言葉「濱田さん、学長裁量経費、プロジェクトというのは本来1年限りのもものだけれど、内容が素晴らしいので、今年も採用させていただく」は、大いなる励みであった。その後、「国際交流支援」の資金も獲得できたし、神奈川県が支援する講座事業にも積極的に参加してきた。

以下は、K-サポートチームの簡単な紹介である。

学習支援 「学習支援チーム」は、面接授業開講期間中のほとんどの土・日曜日に談話室にブースを出していた。勉強の仕方というより、各メンバーの学問に対する姿勢から始まり、放送授業科目や面接授業に関する評価まで飛び出していたようだ。まさに学生が欲しい情報を提供するチームであった。毎年行われる横浜市主催の市内大学案内のイベントでは、放送大学の紹介・説明まで貢献していただいた。

機関紙 学習センターだよりは、K-サポートが成立する前は、隈部正博先生が、記事集めに苦勞していた。「機関紙編集チーム」ができてからは、事務室との共同作業も順調になり、年4回の「センターだより」が定期的に発刊できるようになり、質の良い紙を用いて印刷所で印刷するようになった。年間で合計 7000 部が学生あるいは入学希望者に渡るようになった。

バス研修旅行 放送大学教育振興会が放送大学に委託し、全国の学習センターに配分された資金は、毎年行われる主にバスを使った一日研修旅行に使用した。どこに行くかは、「バス研修チーム」が下調べをし、見学場所の詳しい解説記事を作成する。また、バス移動の間に、教員が何らかの話をするようになっており、また学生の自己紹介もあり、日常は孤立して学習している学生にとって、仲間づくりのきっかけにもなっていた。

—メダカの学校を目指して—

地域へ 学習センター周辺の“地元に出よう、迎えよう”がコンセプトの「**地域連携チーム**」である。KSC を出発点として、今年北へ、次の年には南へ、それぞれテーマを決めて、一日のウォーキングを行う。近在に住む本学の学生でない方も参加した。全体で 100~150 名が集合し、いくつかの班に分かれ、そのサブリーダーは途中のポイントとなる場所や建造物・遺跡などの説明を、事前にリーダー達が綿密に用意した情報から学び、それを参加者に伝える。歩きながらのおしゃべりも重要である。健康と知識の詰まったイベントはいつも好評であった。なお、このチームがウォーキングを行う際、「放送大学神奈川学習センター」の名前が入った 2 種類のハッピーを着ていただいている。このハッピーは、当時の宮崎事務長の発案で、事務職員のコンペによって柄が決まった。これは歩く広告塔にもなっている。

国際交流 「**国際交流チーム**」は、まずは、KSC に隣接する横浜国立大学の留学生会館などに声をかけ、互いの文化の一端を紹介し合う小規模の meeting から始まったと記憶している。留学生の生活上の諸問題に、簡単な suggestion などを行ったと聞いている。2012 年、幕張メッセで開かれたアジア公開大学連合 (AAOU) の国際会議では、英語サークル「うえるかむ Kanagawa」の会員が中心となり、飛行場への出迎えから始まり、様々な滞日中の世話、会議の進行支援に活躍した。

2013 年 2 月には、客船一艘を借り切って、フェリス学院大学の西比呂志教授の講演を含め 200 名定員 (半分が外国籍) での交流の一時を楽しんだ。

また、韓国語同好会が中心となった韓国放送通信大学日本学科の学生 (引率の教授も含め) との交流、中国語学習会が中心になった中国湖南省の教員視察団との交流も思い出深い。

パソコン支援 インターネットを用いて、放送授業を視聴、通信指導の解答提出、科目登録などを行うための「**パソコンサポートチーム**」が 2014 年に立ち上がった。K-サポートの活動が自律的に発展していることの証左と思える。

以下は、K-サポートとは直接には関係しないが、KSC の学生活動に重要な 2 つの仕組みについて紹介する。

サークル協議会 「同好会サポート」の意義は、後に「サークル協議会」に発展したのだと考える。KSC の 10 前後のサークルの構成員は二重三重に重なっており、それぞれ活発に活動しているが、春・秋のフェスタ・ヨコハマでのサークル紹介、講演会などサークル間の調整が必要である。毎月 1 度の会議が行われている。

卒業生を結ぶ 「**神奈川同窓会**」は、学生サークルでも K-サポートでもないが、いずれかのサークルの会員も兼ねている人が多い。「**弘明寺サロン**」では会員等が講師となり、時宜にあった講演会を開催し、また対面型と組み合わせた**ミニサロン**がある。春・秋には歴史散歩なども行い、会員は年 2 回の**会報『波濤』**で絆が結ばれている。フェスタ・ヨコハマに際しては「**ホームカミングデー**」を開催し、卒業生同士の再会の機会を提供している。「神奈川同窓会」の独特な活動は、あしなが育英会への寄付や公益財団法人「**プラン・インターナショナル・ジャパン**」を通じた世界の就学困難児童への寄付などの**社会貢献活動**を行っていることであろう。大学が行う東京での**学位記授与式**では、式の進行がスムーズに行われるように、10 名規模の実行委員を派遣している。

自治体へ 生涯学習、知識循環の活動は学内にとどまるものではない。神奈川県**県央 8 市**は、人口増加率が高く、放送大学への潜在的な学生がいる。この分析に基づき、各自治体の生涯学習担当部局に連絡を取り、懇談会を含め他の市の**担当者間の交流** (特に課長クラスの人たち) の促進を触媒した。これは、宮崎事務長の手腕が発揮され、また K-サポートの人たちの裏方支援も忘れてはならないだろう。そして、それぞれの**教育委員会**の協賛を得た講演会・討論会などを行った。

コロナ禍の前までは、どのチームも創意あふれる活動を展開していたことが、その後、毎年まとめられた K-サポート報告書からも窺える。何よりも 15 年以上、連綿と継続していることが K-サポート発足にかかわった一人として、こんな嬉しいことはない。

以上、私に関係した「生涯学習+知識循環型社会」の活動と、それを支え、あるいはリードしてくれた K-サポートの皆さんの活動のごく簡単な一端を紹介した。

結局、私たちが目指したのは、原田順子先生が強調していた「**メダカの学校**」としての KSC であった。放送大学には年若の学生もいるが、現職の、あるいは定年後の高齢者が多い。社会的経験も豊かだし、専門知識・技術を持った人も多い。そのような集団では、鞭を振って教え込み、行動を管理する「**スズメの学校**」ではなく、誰が生徒か先生かわからない、信頼に基づいた「**メダカの学校**」であるべきだろうし、放送大学の学習センターはそれができるシステムだと、常々考えている次第である。KSC がさらに発展し、持続できるよう、関係者の皆さんに、エールを送りたいと思います。

センターだより 創刊 100 号 記念特集

「神奈川学習センターだより」 発行までの長い前夜

—100号記念連載第1回—

放送大学名誉教授 坂井 素思



神奈川学習センターをわたしがはじめて見たのは、もう40年前になりますが、1985年3月のことでした。建物全体の半分がようやく新築され、開所式が行われたときです。もう半分の建物では増築用の鉄骨がむき出し状態であるにもかかわらず、「入学者の集い」もここで催されました。この状態を工期の遅れと見ずに、センターの将来発展の象徴とみんなが見ていたのは不思議でした。放送大学関係者だけでなく、当時の神奈川県知事 長洲一二氏や横浜国立大学の教授たちも開所式に出席しました。お祭りのような雰囲気でした。なにか面白いことが始まると思い、学生をはじめ、みんなが集まってきたという感じでした。

建物が半分しかできていない不完全状態で発進したのは、神奈川学習センターだけではありません。じつは千葉本部の建物も、この4月にまだまだ完成していませんでした。放送大学全体の準備室は今の東京学芸大学附属高校のある世田谷にあり、わたしの放送大学への就職面談もこの隣の建物で行われました。高校の校門横のアール・デコ調の守衛室が発

祥の地で、校舎2階の和室が1985年以前の教授会の場所でした。他方、神奈川学習センターの準備室は今の横浜国立大学附属中学校の北の外れにあり、センターの打ち合わせのたびにそこに集まって懇談していました。いざ自分の神奈川学習センターへの着任が近づくと、やはり新しい場所が拓かれたという思いでした。

事務スタッフは横浜国立大学からセンター事務長の二宮氏、総務の石塚氏、教務の上野氏など、選り抜きの職員が集められていました。いつもジャージを着て活動的で、テニスなどの運動をしながらも、たえず動いていた印象があります。そしてセンター所長の宮代教授（工学）はじめ、徳井助教授（服飾）、星助教授（心理）、高橋助教授（中東）、わたし（経済）の教員スタッフ。わたしたちはこの設立の3年前に公募で選考されましたが、大学院出たて（いわゆるポスドク）だったり外国からの研究留学帰りだったりして、ニューヨークやパリを感じさせるような、それぞれ洒脱というのか陳腐というのかの服装をしていたのが印象的でした。



研究者の場合、奨学金を貰って大学院を修めるのですが、この奨学金の返却免除を受けるには、大学院修了後一定期間内に、大学などの研究機関に就職しなければならないという規定があり、辞令発行のほんの数日違いで免除を受けられなかったり受けられなかったりすることが起こってしまうのでした。わたしたちも例外ではなく、数百万円の借金を背負うのか帳消しになるのかという、明暗が分かれる悲喜劇が起こったのでした。

「神奈川学習センターだより」発行までの長い前夜

1998年に「神奈川学習センターだより」が発行されるまで、まだ少し準備期間が必要でした。まずセンターだよりを作るための時間的余裕が必要だったのです。放送大学の当初は、3学期制だったので、授業と試験のサイクルがぐるぐる回って、その度に新学期の儀式もあり、通信添削もあるため、採点の数もふつうの大学の数倍の量があり、スタッフも先生方もかなり疲れていました。3年目からは卒業論文指導も付け加わりました。あまりに忙しくて、他の学習センターの先生でしたが、倒れて亡くなるという痛ましいことも起こりました。当時の香月学長が単位認定試験のたびに千葉名物の大きな大福饅頭を各学習センターへ差し入れてくれましたが、そのくらいの甘さ補給で、体力と気力が回復するというわけにはいきませんでした。楽しみがみえて来ないと、じっさい出版やテレビ・ラジオ制作の大学の仕事から抜け出してニューズレターを作ろうという気にはならないものです。それでも次第に、『バベットの晩餐会』などの映画上映会を開催したりして余白を見出しつつありました。

もちろん、センターだより発行には、学生の方々の準備も必要でした。センターだよりは学生のためのものでしたから、編集には学生の眼が最も重要でした。神奈川学習センターの学生団体は他のセンターと違って、同好会ごとに組織されるだけでなく、包括的な機能を持つ連合体として、開校とほぼ同時に「放友会」と「人間学研究会」が設立されました。他の同好会からも参加がありましたが、かれらのセンターだよりへの参加が、何か今までの事務伝達と違う社交性のコミュニケーション文化の香りをもたらさだろうと期待したのも事実でした。

常連の編集員である五十嵐さん、遠藤さん、星さ



ん、加藤さん、松本さん、皆川さん、吉田さんに加えて、時に応じて若手の学生たちが印刷・配布工程を手伝ってくれました。フェスタ・ヨコハマなどの学生たちのイベントでは、チラシをたくさん刷って、みんなで記事集めのために学生たちの間を駆け回りました。記事集めはコミュニケーションとしても、たいへん有効でした。多くの書き手を発掘したのです。「書いてください」とチラシを渡すと、たいへんの学生の方々は「いいですよ」と積極的に応答してくれました。着実に「神奈川学習センターだより」が発行される素地が整ってきていたのです。

(第2回へつづく)



今回ご寄稿いただいた坂井素思先生を講師にお迎えして、8月30日(土)、31日(日)に開催予定の『第36回フェスタ・ヨコハマ』で記念講演会を実施する予定です。講演会は31日を予定しておりますが、詳細が決まりましたら神奈川学習センターウェブサイトでお知らせします。

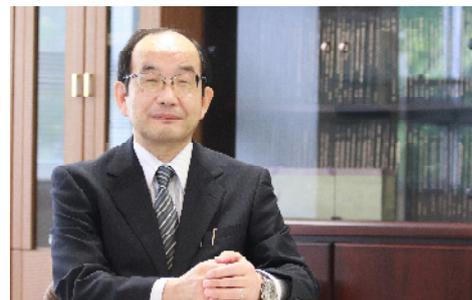
(O U) 神奈川学習センターだより編集部)

センターだより 創刊 100 号 記念特集

第 100 号の発行にあたって

放送大学神奈川学習センター所長

大谷 英雄



私自身そうでしたが、神奈川学習センター（以下学習センターはSCと略します）の機関誌は年に4回季節ごとに発行されており、季節の便りとして“はるだより”、“なつだより”、“あきだより”、“ふゆだより”と題して届けられており、あまり通巻何号というのを意識することはないと思います。

ただし、タイトルの「OUJ 神奈川学習センター〇〇だより」の左下に小さく巻数が書かれています。前号“ふゆだより”には通巻第99号と書かれていますので、今号は通巻第100号にあたるというわけです。

年4回発行されているとすれば第1号が発行されたのは25年も前のこととなりますので、私にはどのような経緯で機関誌の発行に至ったのかといった事情は分かりませんが、所長、客員教員の先生方の挨拶や学生さんの研究紹介など、神奈川SCにおけるイベント報告、サークルやK-サポート紹介、ゼミや公開講演会のお知らせ、事務室等からのお知らせ、その他各種お知らせをご案内してきました。100号続いてきたということだけでもお祝いすべきことだと思いますが、少しでも皆様のお役に立てたら何より嬉しく思います。

皆様ご承知のように全国には50のSCがありますので、他のSCはどのような機関誌を発行しているか気になって調べてみました。機関誌を発行していないところはありませんでした。発行頻度は年1回から年2回、年4回、年6回とバラツキがあり、年1回と年6回というSCは1つずつで、32センターは年4回、年2回のセンターが16でした。また、機関誌を学生に郵送しているSCもありますが、新入学者にのみ機関誌を郵送しているとか、ほとんどのSCはWebから入手できるようにしていると

いうことで郵送はされていません。

全体の傾向としては、予算の制約もあって印刷を中止したり、発行回数を減らしたりという傾向になっているようです。神奈川SCでは印刷はしておりますが、郵送はしておりませんので、Webから手に入れていただくか、センターに来所された際に印刷物を手に入れていただくようお願い致します。

ご承知のように放送大学が設置されたのは1983年で2023年に40周年を迎えたわけですが、学習センター（群馬、埼玉、千葉、東京第一、東京第二、神奈川）が学生の受け入れを開始したのは1985年、学習センターの全国化が完了したのは1998年ですので、学習センターの歴史としては最も長い神奈川を含む6センターで40年、短いところは30年弱ということです。

全国を見ても季節のたよりという名称にしているのは神奈川SCのみで、他はそれぞれに趣向を凝らした機関誌名をつけていますので、例えば岩手SCの“イーハトーブ”、長野SCの“アルプス”、大阪SCの“みおつくし”などは地域性が出ていますね、その通巻何号というのが明確になっているものが多いです。

それを見ても最も号数が多いのが広島SC“往還ノート”の257号でした。年4回発行を続けてもこの号数には達しないので、特別号がかなり発行されたのではないかと思います。

かつては情報発信に有効であった機関誌ですが、紙の機関誌は速報性に劣りますので、今後は機関誌も含めてWebでの発信が増えていくことになると思います。

春のフェスタ・ヨコハマ

2025 年 3 月 9 日（日）午後、神奈川サークル協議会による春のフェスタが開催されました。

前半は、神奈川学習センター客員教授・関東学院大学教授の君塚直隆先生による公開講演会「世界の君主制から日本の皇室を考える」でした。君塚先生は、日本の国家形態、ヨーロッパ王室からの示唆、平成時代の天皇皇后による活動、令和時代の天皇皇后の特徴、新しい天皇皇后に期待できること、より



国民に近い皇室へ、皇位継承の危うさについて順を追って話をされました。ご講演と質疑応答を通して、なんとなく知っていることに留まらず、私たち個人個人が日本の皇室について考えてみるのが大切なのではと気づかされました。

後半は第 2 回となるビブリオバトルが開催されました。サークルからの推薦による 5 名の発表者が登壇し、面白いと思う本についてプレゼンテーションを行い、聴衆とのディスカッションの後、その場の全員が 1 人 1 回挙手をしました。最も多くの票を得てチャンプ本となったのは、うえるかむ Kanagawa の津久井さんによる『先生、どうか皆の前でほめないでください』で、若者の心理や行動の背景、支援や理解についてのものでした。



令和 6 年度 学位記授与式

2025 年 3 月 22 日（土）11 時よりベルサール高田馬場（東京都新宿区）にて、2024 年度放送大学学位記授与式が挙行されました。卒業・修了生代表への学位記の授与の後、岩永雅也学長の式辞、来賓祝辞、卒業・修了生総代の答辞、各種表彰が行われました。

午後は、ホテルニューオータニに会場を移し、同窓会連合会主催で卒業・修了祝賀パーティーが開かれました。高橋道和理事長による乾杯の発声のあと、卒業・修了生、先生方、学習センターごとにテーブルに集まり、今日を迎えるまでの勉学をたたえ合っていました。フォルクローレの演奏家アントニオ・カマケさんのリズムに乗って今期で退任される石丸昌彦教授が先導し、会場のみなさんが行進したり手を振ったりと賑やかなパーティーになりました。

神奈川学習センターからは、卒業生 204 人、修了生 11 人のうち、数十名の方が参加されました。今期卒業生最高齢の石田清一さん他 10 名の方が名誉学生表彰を受けました。



令和 7 年度 第 1 学期 入学者の集い



2025 年 4 月 6 日（日）神奈川学習センターにおいて、2025 年度第 1 学期の入学者の集いが開催され、今学期の入学 1,438 名のうち約 160 名が出席しました。

式は、岩永学長による動画メッセージから始まり、所長式辞、同窓会金田会長による祝辞、客員教授紹介が行われ、横浜国立大学梅原学長からの祝電披露、学歌斉唱が行われた後閉式となりました。休憩をはさんで、学習センター教務係によるオリエンテーションが行われた後、若者の集い、K-サポート、サークル紹介が行われました。

所長による勉強の仕方講習会

今学期の「所長による勉強の仕方講習会」が4月19日(土)午後、学習センター第6講義室にて開催されました。大谷英雄所長が新入生向けに、大学生の学びについて、「学生生活の葉」の重要な事項、システム WAKABA を使った学びについて具体的にお話をされ、16 人の出席者が真剣な面持ちで耳を傾けていました。1 時間余りの講習会の後は、K-サポート学習相談チームによる学習相談会が開催され、学生同士の立場で回答したり共感し合ったりするやりとりが見られました。



客員教員の異動について

神奈川学習センターでは、2024 年度末をもって 5 名の客員教員が退任され、この 4 月からは新たに 4 名の先生をお迎えしました。今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

❖ 2025 年 3 月 31 日 退任

植村 博泰 客員教授	大重 賢治 客員教授	大庭 絵里 客員教授
君塚 直隆 客員教授	飯田 深雪 客員准教授	(以上 5 名)

❖ 2025 年 4 月 1 日 着任



安藤 孝敏 客員教授／横浜国立大学名誉教授／ヤマザキ動物看護大学特任教授
専門：社会老年学、高齢者心理学、人と動物の関係学

私の専門は、「老年学」(ジェロントロジー)の中でも、加齢に伴う社会生活の変化を対象とする「社会老年学」という分野です。人口の高齢化とそれに伴う社会生活の変化を踏まえ、近未来の高齢社会像を皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。



嘉藤 亮 客員教授／神奈川大学 法学部教授
専門：行政法、地方自治

私たちの生活は膨大な数のルールで規律されていますが、それは安心・安全な市民社会を実現させるためのものです。こうしたルールが適正に策定・執行されるには、住民に身近な地方公共団体の役割は非常に重要となります。ともに望ましい地方公共団体の法としくみについて考えていきましょう。



小林 正佳 客員教授／横浜国立大学名誉教授
専門：社会言語学、語用論、英語教育

「社会における言語」という視点から、私たち人間を覗いてみましょう。頼みごと、つぶやき、外国語学習…すべて社会の中でのコミュニケーションと捉えられます。言語使用の当たり前に学問的光を当てます。優しく(易しく)楽しく!がモットーです。



高井 啓介 客員教授／関東学院大学 国際文化学部 比較文化学科教授
専門：キリスト教学、旧約聖書学、宗教学

キリスト教の聖書(旧約聖書・新約聖書)のなかの物語的部分がキリスト教芸術(美術・文学・映画・音楽など)でどのように受容され変容されていったかを、考えてみましょう。日本ではどのように伝わっているかも考えてみます。聖書の物語を味わうこと自体楽しい経験になると思ひます。

令和 7 年度 神奈川学習センター開講ゼミ一覧

神奈川学習センターのゼミは、所長、客員教員が主催する勉強会です。自由な雰囲気、先生からの指導、学生相互の意見交換、親睦を深めることができます。

ゼミへの参加を希望される方は、神奈川学習センターウェブサイトのトップページに掲載の「神奈川学習センター実施のゼミのご案内」のリンク先から、注意事項を確認のうえ申請を行ってください。

◆ 神奈川学習センター客員教員開講ゼミ

教員名	ゼミ名	活動内容	開催予定日
安藤 孝敏	生活の中の老年学	老年学（ジェロントロジー）は、高齢者の生活にかかわる問題などを解明し、より良い高齢社会をデザインするための学問です。このゼミでは、日常生活の中にある高齢社会の様々な問題について、ゼミ生と一緒に考えていきます。	毎月第 3 水曜日 学生との調整により変更もあり
大谷 英雄	リスクを考える	現代はリスク社会と言われ感染症のリスクや自然災害のリスクなどがマスコミでも取り上げられることが多いが、一方でリスクはあるかないかを議論するものではなくて大きい小さいかが議論されるべきものであるのに、あるかないかが議論されていることが多いように感じられる。このゼミではリスクの捉え方や伝え方などについて議論していきたい。	毎月第 3 火曜日 学生との調整により変更もあり
大矢 勝	洗淨科学ゼミ	洗淨を通して科学的な態度を楽しむ姿勢を身に付けることを目的として、毎回洗淨に関する別のテーマを設定し、それぞれの有効な洗淨方法とその仕組みについて考えていきます。 ※開講期間 2025 年 10 月 1 日～2026 年 1 月 16 日	毎月第 2 または第 3 木曜日
間嶋 隆一	地質学・古生物学ゼミ	地質学と古生物学に関する勉強と野外実習や見学の実施。	最初のゼミ日に日程調整します

◆ 元客員教員開講ゼミ

教員名	ゼミ名	活動内容	開催予定日
植村 博恭	グローバル時代の社会と経済政策	本ゼミナールは、グローバル時代の社会と経済政策のあり方について学びます。特に、様々な身近な問題を毎日働き暮らしている生活者の視点で考えていきたいと思えます。日本企業における働き方の改革、男女平等社会の実現、退職後の安心できる暮らし、個人資産の有効な管理と運用などを取り上げつつ、私たちひとりひとりの生活を支えてくれる経済政策のあり方はどのようなものか、勉強していきます。特に、若者、中堅世代、高齢者、女性、男性といった様々な世代の市民の観点からゼミを進めて行きたいと考えています。	毎月 1 回程度 金曜日 (Zoom 及び対面)
高橋 邦年	英語基礎ゼミナール ※現在、新規のゼミ生の募集は行っていません。	毎回 2.5 時間（休憩 10 分）の活動を行う。平易な英語教科書を選び、必要に応じて講師が内容について説明・解説をし、それを受けて学生が演習を行う。進度はあらかじめ定めず、無理なく進める。	基本的に 毎月第 2 土曜日 あるいは 第 3 土曜日

学生サークルからのお知らせ

※サークルの活動内容や加入等に関するお問い合わせは、下記の各サークルの連絡先にお問い合わせください。神奈川学習センターではお答えすることができません。

■ 神奈川放友会

- ◆ 1985年神奈川学習センター開設と同時に創立「共に学び、人間的交流を深め、奉仕によって社会とつながる」ことを理念として、現在115名の会員が、学内・学外活動に積極的に参加しています。
- ◆ 2025年度夏～秋行事予定
 - 7月 能楽鑑賞(国立能楽堂「船弁慶」他)
 - 8月 創立40周年記念行事(高橋和夫先生講演会と横笛+琵琶による邦楽演奏会「平家物語」他)
 - 9月 1泊研修(卒研発表会/幕張本部研修所)
 - 10月 秋季例会(SQ 航空現役機長講演)
- ◆ 詳細 <https://kanagawa-hoyukai.jp>
- ◆ お問い合わせ info@kanagawa-hoyukai.jp 兼田

■ 韓国語同好会

- ◆ 韓国語の日常会話を習得し、韓国放送通信大学日本学科との日韓文化交流を通して日韓相互の生活、歴史、文化への学びを深めることを目的としています。
- ◆ 定例会：2回/月 第1・第3土曜日
講師 姜貞福(カン)先生
- ◆ 授業時間：9:20～10:20 初級
(基礎学習：2025年6月から開設)
10:30～11:50 中級(日常会話を学びます)
- ◆ 場所：神奈川学習センター又は大岡地区センター
- ◆ レク活動：近郊の関連地散策、日韓交流会等興味をもたれた方、是非お仲間!
- ◆ お問い合わせ：サークル協議会ホームページ
<https://kcc-ouj.net/dantai/hanguo/index.html>

■ 放大かながわレク・サークル

- ◆ サークル活動：放送大学生との「仲間作り」とウォーキング等の「健康づくり」
- ◆ 例会：2ヶ月に1回(含、映画鑑賞会)
- ◆ ウォーキング：2ヶ月に1回、「鎌倉街道」実施中。名所旧跡文化施設等も対象。
- ◆ その他観劇、観光、映画、美術鑑賞等。
上記の各種活動はいずれも自由参加。
— 会員募集中(随時申込・受付) —
- ◆ お問い合わせ：島田 義治 Tel 090-3907-8384
Email bunsima829@gmail.com

■ 中国語学習会

中国語でチョット挨拶ができればなあとか、前から中国文化に興味あったけどという方。ニーハオ!中国語学習会です。中国人の先生と和気あいあい、一生懸命勉強しています。初めてでも、昔勉強した人も、大歓迎です。一緒に学ぶ仲間がいるのは心強いですね。第2・第4日曜日の午前と午後、学習センターで、ぜひあなたも一緒に。
詳細は、下記までお問い合わせください。
elcondor@ra2.so-net.ne.jp : 近藤または、
tomomama4213@docomo.ne.jp : 細矢まで。

■ 人間学研究会

- ◆ 「人間が関わる様々な事象について、学習、探索、議論と親睦を図っています」
会員 61名(男性 35 女性 26)
- ◆ 月例会：卒業研究・世界旅行体験・茶話会・外部講師講演他
原則：毎月第2土曜日 12:30
神奈川学習センター又は大岡地区センター2F
日時・会場・テーマはポスターを掲示
- ◆ 会誌：せせらぎ 35号発行
- ◆ ウォーキング：花菜ガーデン散策(6月)
- ◆ 連絡先：片野賢治 mt.dream@jcom.home.ne.jp

■ うえるかむ Kanagawa

- 私達は英語を楽しみながら学んでいるサークルです。
- ◆ 例会は原則、毎月第2・第4水曜日
 - ◆ 外国人講師の英会話レッスン(Zoom)(10:00～11:30)
(参加費有料、初中級・上級の2クラスに分かれ、各45分)
 - ◆ Group Study (13:30～15:30)
入門・中級・上級の3クラスにて学生同士で学ぶ
入門：Zoom
中級：対面(春・秋)、Zoom(夏・冬)
上級：対面
 - ◆ スクラブルデイ：第2金曜日 13:30より対面
 - ◆ 年会費：現在は無料(通常は年1,000円)
 - ◆ ホームページ
<https://welcome-kanagawa.jimdofree.com>
 - ◆ お問い合わせ
金子 響(Email: kaneko-toyomu@outlook.jp)

■ 資格取得研究会

- 看護・福祉分野(心理や教育系も含む)のキャリアアップや進学・就職を目指す集まりです。目標の資格は、正看護師、看護学士、認定心理士など。例会は、不定期に、学習センターで原則土日開催。オンライン開催併用。情報交換が中心。
- ◆ 会費：500円(1年間)
 - ◆ ホームページ：<https://shikakuken.net/>
 - ◆ お問い合わせ：080-5546-7913 (はこぎき)

■ ダンスサークル (社交ダンス)

- ダンスはスポーツ!人生100年時代に向けて健康増進、素敵な姿勢、ストレス解消に是非一緒に踊りましょう。コロナ前には20名でしたが現在は10名、優秀なインストラクターの元で毎回楽しくレッスンに励んでいます。未経験者大歓迎です!先ずはお気軽に見学にお出で下さい。
- ◆ 神奈川学習センター第7講義室
 - ◆ 毎月2回、原則第2・第4火曜 13:30～15:30
 - ◆ 会費 1,500円/月、年会費 1,000円
 - ◆ ダンスパーティーで踊れるレベルへ練習(モダン、ラテン)
 - ◆ 連絡先 三浦直彦 miuranaoh21@gmail.com

■ 神奈川合唱団

- ◆ 合唱未経験者歓迎
- ◆ 合唱を愛好する皆さんと一緒に音楽を通して学生生活をエンジョイするサークルです。現在 30 有余名の学生が合唱を楽しんでおります。
- ◆ 2025 年 4 月には、国際シニア合唱祭(みなとみらい大ホール)で「喝采」<秋桜>を歌いました。
- ◆ 指導は、発声・歌唱を清水一成先生(プロのオペラ歌手)、ピアノ伴奏を村上千絵先生のご指導で練習に励んでおります。
- ◆ 場所：大岡地区センター 音楽室 2 階 (放送大学神奈川 SC の斜め前のビル)
- ◆ 練習日：毎月 第 2・第 4 水曜日 18:30~20:30
- ◆ 連絡先：nobukishi0429@gmail.com

■ 歩・歩の会 (地球研)

- ◆ 目的：地球科学ゼミ(有馬ゼミ)を発展的解消し、結成されたサークルです。地球科学をベースに自然を学び「人新世 (Anthropocene)」における地球環境危機について考えています。
- ◆ 活動：毎月 1 回程度 活動参加の時に 500 円徴収 25 年度活動計画：池上の蛇紋岩、両神山のチャート、高尾山の小仏層、丹那断層、佐渡島 Geo、初島巡検、箱根火山、西丹沢のガーネット採取など。
- ◆ ご興味のある方のご連絡ください。(代表：吉岡・中澤) Email earth.hoho.kanagawa@gmail.com

■ スペイン語研究会

- ◆ 目的：スペイン語習得とスペイン語圏歴史・文化の習得
- ◆ 活動：月 2 回(原則 第 1・第 3 水曜日)
- ◆ 会費：初級 月 1,000 円、中級 月 2,000 円
- ◆ 初級：会員講師により基礎中心
中級：ペルー人講師により会話中心
- ◆ その他スペイン語圏の講演会などに参加
- ◆ 入会申込み：https://cdek.yokohama/
- ◆ 連絡先：会長 中田博久

神奈川同窓会だより

■ 第 36 回放送大学神奈川同窓会通常総会

日時：5 月 24 日(土) 13:00~
場所：神奈川学習センター第 3 講義室

■ 第 77 回 弘明寺サロン

通常総会終了後、同じ会場で開催(15:10 頃より)
演題：世界最高峰トレイルランニングレース
UTMB に夫婦で挑戦
講師：岸 信男さん(放送大学神奈川合唱団団長)

■ 令和 7 年度ホームカミングデー

日時：8 月 30 日(土) 会場：神奈川学習センター
(詳細は、後日「波濤 Web」等で、発表します)
お問い合わせは、info@hatoh.net

K-サポートからのお知らせ

2025 年 3 月 8 日(土)午前に 2024 年度 K-サポート発表会を開催しました。例年より短時間の会合となりましたが、2024 年度の活動のふり返しを行うと共に 2025 年の計画を関係者で共有することができました。

2025 年度第 1 学期は、学習相談会とパソコン初心者塾を実施します。学生の皆さまのご参加をお待ちしております。

● 学習相談

5/18(日)、5/31 (土) 13:05~神奈川学習センター談話室で行います。(予約不要)

● パソコン初心者塾

4/27(日)、6/7(土)、6/22(日)、7/27(日)、8/2(土)、8/23(土)
12:50~ 神奈川学習センター実習室
※8/2 のみ、14:30~技術交流会の実施となります。
お申込みは、学習センターに備付の申込用紙を提出してください。
(K-サポート事務局)



神奈川学習センター学生サポーターによる『学習相談』のご案内

私たちは、同じ学生の立場で、在学生のみなさんの快適な学生生活を妨げないから学習目標を達成できるような学習相談を行っています。学期初めのお悩みが、ここで解決できる場合があります。お気軽にご参加ください。

2025年度1学期は、神奈川学習センターにて表の通り行います。

5月18日(日) 談話室 (2階)
5月31日(土) 談話室 (2階)
午後 1 時 05 分から午後 3 時 50 分

○ 予約不要です。直接会場へお越しください。
○ ご質問の内容によっては、回答までに数日以上の期間がかかる場合があります。

2025年度1学期は、神奈川学習センターにて表の通り行います。

● 申込用紙は、学習センターに備付の申込用紙を提出してください。
● 申込用紙は、学習センターに備付の申込用紙を提出してください。

● 申込用紙は、学習センターに備付の申込用紙を提出してください。

● 申込用紙は、学習センターに備付の申込用紙を提出してください。

K-サポート

2025年度1学期 K-サポート

パソコン初心者塾

【授業内容】
ネット駆使授業の視聴 通信指導員出席
単位認定試験練習 科目登録申請
パソコン基本操作 Word Excel PowerPoint
AI 等 学習の悩み・相談会

【授業体制】
パソコンサポートチーム
学習の悩み・相談会
通信指導員出席
単位認定試験練習
科目登録申請
AI 等

【対象】 放送大学の学生 (国) で
パソコンなど基礎知識が乏しい 放送大学ホームページ
応用できない方 Word/Excel/PowerPoint の初心者
国(海外)から入学した方 海外から入学した方 海外から入学した方
入学したばかりの方 入学したばかりの方 入学したばかりの方

【参加料】 無料 申込必要・欠席連絡厳守!

【学習相談】
☆ 在学学生 自由な主体性を持って取り組む (聴講生等の範囲)
☆ サポーター 基本 聴講生等に応じて支援 (聴講生対応はしない)

【時間】 曜日・受講等 11:30~12:00(土)・12:00~12:30(日)
※ 時間 → 12:50(学習) → 15:30(昼休憩) → 16:00(学習)
※ 受講料 → 12:50(学習) → 15:30(昼休憩) → 16:00(学習) → 16:30(学習)

【申し込み】 神奈川学習センター実習室 <事務室>
☆ 定員 → 1 2 名 申込みの先着順

【お問い合わせ】 神奈川学習センター実習室 <事務室>からご連絡ください!

No.	実施予定日	本人申込 講座	学習内容
01	4月27日(日)		聴講生等への相談 聴講生等への相談 聴講生等への相談
02	6月7日(土)		聴講生等への相談 聴講生等への相談 聴講生等への相談
03	6月22日(日)		聴講生等への相談 聴講生等への相談 聴講生等への相談
04	7月27日(日)		聴講生等への相談 聴講生等への相談 聴講生等への相談
05	8月2日(土)		聴講生等への相談 聴講生等への相談 聴講生等への相談
06	8月23日(土)		聴講生等への相談 聴講生等への相談 聴講生等への相談

【お問い合わせ】
● 1 学期の学習相談の「パソコン初心者塾」に記入・印刷
● 申込用紙 (国) に必要 (1 講座の申込用紙を複数枚の申し込み可能)
● 申込用紙の提出は、学習センター実習室 (国) に提出してください。
● 欠席する場合は、事前に学習センター事務局までご連絡ください!

TEL: 045-710-1910

OUJ 神奈川学習センターだより編集部 伊藤、入江、遠田、笠井、吉川、木下、宮崎、三国
(以上、K-サポート機関紙編集チーム)、垣谷 (K-サポート事務局)、小峯 (学習センター事務局)

神奈川学習センターからのお知らせ

卒業研究履修ガイダンスについて

本部の教職員が申請方法から研究の進め方について説明を行います。2026年度に卒業研究の履修を検討されている方は、ぜひご参加ください。

申し込み方法等詳細は、神奈川学習センターウェブサイトに掲載します（5月下旬～6月上旬頃）。

日 時：6月21日(土) 13:00～14:30
開催方法：Zoomによるオンライン
内 容：卒業研究の履修手続きについて
(予定) 卒業研究の進め方について
所長面談について

臨時閉所日・夏季閉所日について（7月・8月）

臨時閉所日：7月8日(火)、7月15日(火) ※各前日の月曜日も閉所日(通常どおり)となります。

夏季閉所日：8月11日(月)～8月18日(月)

上記以外にも、台風等により気象警報が発表された場合は、臨時閉所となる場合があります。

第1学期単位認定試験について

単位認定試験は、Web受験方式により実施します。自宅等からインターネットを通じてWeb単位認定試験システムにアクセスして受験します。期間中いつでも受験可能ですが、1科目50分の制限時間があり、各科目1回のみ受験可能です。詳しくは、「学生生活の葉」を参照してください。

実施方法	出題形式	試験日程（郵送試験は提出期間）
Web試験	択一式科目	7月16日(水) 9:00～7月24日(木) 17:00
	記述式・併用式科目	7月16日(水) 9:00～7月20日(日) 17:00
郵送試験	すべての出題形式	7月16日(水)～7月20日(日) 必着

令和7年度第2学期 科目登録について

次学期（2025年度第2学期）に履修する授業科目の登録は、今学期中に行う必要があります。7月中旬以降に「科目登録申請要項」が大学本部から送付されますので、必ず期間内に手続きを行ってください。

申請期間 システム WAKABA から申請：8月15日(金) 9:00～8月29日(金) 24:00

郵送での申請：8月15日(金) 9:00～8月28日(木) 私書箱必着

入学生募集 入学のチャンスは年2回（4月・10月）!! 資料のご請求は年間を通して受け付けています（無料）

ご家族やご友人で入学を検討されている方や、放送大学に興味があるという方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。大学案内パンフレット、授業科目案内、学生募集要項などをお送りします。気軽にお申し込みください。

放送大学 資料請求

検索

令和7（2025）年度第2学期の募集は6月10日(火)から開始します。

募集学生：教養学部（全科履修生・選科履修生・科目履修生）、大学院（修士選科生・修士科目生）

※修士全科生、博士後期課程の出願期間は、8月15日(金)～8月25日(月)となります。